

I 教育目標	
<p>【校訓】 『力いっぱい』 ～Do my best!～ 【教育目標】 ◎優しい人 ○学び深める人 ○挑戦する人 【キャッチフレーズ】 「未来を創る Ari-nishi の子 とともに育てる Ari-nishi Family 大切にしよう五つの輪」</p> <p>有明西学園のこどもたちは、日本や世界の次代を担う宝である。そして、その宝であるこどもたちは、関わるすべてのおとなたち(Ari-nishi Family)が、心を一つにして、ともに育てていくことが必要である。そのためには、有明西学園の人の輪（こどもの輪、教職員の輪、保護者の輪、地域・社会の輪の4つの輪）、そして、その4つの人の輪を結ぶ有明西学園という大きな輪が、時に大きく広がりながら、またある時は小さく近寄りながらも、決して輪が切れることなくつながっていなければならない。2020 東京大会が多数の会場で開催された江東区・有明の地に開校した有明西学園では、この『5つの輪』を大切にしていく。</p>	

II 経営方針	
目指す学校像	「こどもたちのために挑戦し続ける学校、すべての人が誇りをもち愛する学校」
目指す児童（生徒）像	何事にも力いっぱい取り組み、自分の力を十分に発揮し、「優しい人 学び深める人 挑戦する人」であり続ける児童・生徒
目指す教師像	小学校でも中学校でもない、義務教育学校である有明西学園を、思いを一つにして創り上げ、こどもたちを確かに育て、保護者・地域から信頼されるプロ教師
経営理念	<p><未来に活躍するこどもたちの育成> 現行の学習指導要領において、これからの学校には、「一人一人の児童・生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と示されている。</p> <p>有明西学園は、義務教育学校として、将来の変化を予想することが困難な未来においても、こどもたちが自らの力を十分に発揮し、主体的に問題解決に取り組み、世界において活躍できるような資質・能力を育成することを目指していく。</p> <p><義務教育学校としての教育の確立と発展> 江東区が有明西学園を義務教育学校として開校したことは、新たなチャレンジである。小学校でも中学校でもない、義務教育学校である有明西学園が、こどもたちのために、よりよい学校になっていくことが私たちに課せられた課題である。</p> <p>こどもたちは、個人差はあるが、1年生から9年生まで少しずつ階段を上るように成長していく。一つの学校だからこそ、その成長が滑らかに進んでいくように、教育内容を一貫したものにし、こどもたちの成長に合わせて進めていく必要がある。</p> <p>課題があれば、それを嘆くのではなく、改善していく。成果があれば、それを有明西学園の特色として、さらに充実させていく。</p> <p>一番大切なのは、有明西学園で学ぶこどもたちを9年間で確かに育てていくことであり、有明西学園のこどもたちが、「有明西学園で学んでよかった」と心から思えること。そして、そのことを保護者や地域の方々が実感できることである。加えて、有明西学園の教育に携わる教職員が、自信をもって「有明西学園の教育は素晴らしい」と言えることが、有明西学園の教育の成功につながっていく。</p>

	<p><東京 2020 大会の中心地として子どもたちの心にレガシーを残す> 有明西学園は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の複数の競技が学区内で実施されたという江東区の中でもさらに恵まれた環境に位置している。競技会場を新たな施設として利活用する機会も増えてきている。この恵まれた環境を日常の教育活動に生かしていく。そして、有明西学園の実践そのものが、東京 2020 大会のレガシーとなっていくことを目指していく。 今年度もオリンピック・パラリンピック、アスリートをはじめ、大会を支える人たちとも直接交流を深めて、2020 東京大会の歴史を次代へと受け継ぐことができるよう、児童・生徒が主体的に取り組んでいく。また、施設の活用や部活動等での連携など、新たな関係性の構築を模索し続けていく。</p> <p><有明西地区の地域コミュニティの中心となる> 有明西学園がある有明西地区は、新たに開発された地域であり、住民も企業も他地域から新たに移転された方々によって構成されている。そのような地域にできた8年目の学校として、有明西学園は、地域コミュニティの中心となる役割を果たしていく。 今年度は、地域学校協働本部におけるコーディネーターを前年度比2人増の8名を配置する。主任コーディネーターが中心となって、子どもサポート、学校サポート、保護者サポートの視点から、学校教育を支援していただく方々を一層積極的に学校の教育活動に招いていく。また、今年度よりコミュニティ・スクール実施に伴い、さらに地域の様々な団体、大学、企業等と効果的な連携・協働を図りながら、地域の意見を反映した学校を創りあげていく。</p> <p><世界に一つだけの有明西学園らしさを、全教職員で創り出していく> 有明西学園は、9年間で教育を行う義務教育学校である。これまでの小学校と中学校の当たり前にとらわれず、施設・教職員・1～9年生までの子どもたちの特徴を生かして、教職員が心をつなげてアイデアを出し合い、ワクワクしながら主体的に新たな教育活動に取り組んでいくことを大切にする。</p> <p><有明西学園に関わるすべての人たちで子どもたちを育て、育ち合う> 有明西学園の子どもたちは、学校だけでなく、有明西学園に関わってくださるすべての方々のお力をお借りし、育てていく。そして、有明西学園は、子どもたちを共に育てていくことを通して、関わるすべての方々が育ち合える場となることを目指していく。 有明西学園の子どもたちのために、有明西学園の教育に関わるすべての方々を、「Ari-nishi Family」と呼ぶ。</p>
--	---

Ⅲ 経営目標

重点領域 1	For…！ 有明西学園の学びの意義や意味を理解し、よりよいものを創る	
中期経営目標	Ari-nishi Family が開校以来取り組んできた教育活動を、現在の学園を取り巻く環境に応じた方法で改善、発展させ、Ari-nishi Family が学園の新たな歴史を創ろうとしている。【令和6年度～令和10年度】	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「For…！」の実現に向け、子ども、教職員、保護者・地域が教育活動の目的の意味やよさや課題を言語化し、いまの有明西学園の教育活動をよりよくしようという意識をもてるようにする。 ・「子どもまんなか」の視点を大切に、子どもの主体的な取組を推進する。 ・大規模校に見合う分掌組織に基づいた組織的な教職員集団を形成し、全教職員が組織の概要について共通理解を図ったうえで必要な改善を図る 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（子ども側）
1	有明西学園の目指す教育の姿について、教職員が共通認識をもち、子どもに伝えられるよう、校長通信を年90回以上発行する。そしてそれに基づいた教育活動を推進・評価・改善している。	保護者アンケート「学園は、校訓『力いっぱい～Do my best!～』の下、今年度テーマ「For…！！」を掲げ、教育活動の充実を図ることができている。」の項目について85%以上の肯定的評価

2	有明西学園の目指す教育の姿、特色ある教育について、有明西学園ホームページで、年間300回以上情報発信する。	保護者アンケート「有明西学園は、ホームページや学園通信、学校公開や行事の参観等を通じて情報発信に努めている。」の項目について85%以上の肯定的評価
3	こどもの意見表明に基づいた教育活動を各学年、委員会等で15回以上実施する。	児童・生徒アンケート「学校は、自分の考えを生かす機会を設定している」の項目について90%以上の肯定的評価

重点領域2		「優しい人」の育成 ～自他を大切にした言動をとれる人～
中期経営目標	スマイル・プロジェクト（全校縦割り班活動）を生かした異年齢活動等、児童生徒が主体的に取り組む活動、他者を大切にする活動の充実が図られ、児童・生徒に優しい心が育まれている。【令和6年度～10年度】	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スマイル・プロジェクトの活動の多様化を図り異年齢活動の機会を充実させるとともに各学年の児童生徒が活動の意義、自分に課せられた役割を自覚し目的の実現を果たす。 ・児童会・生徒会を中心とした、いじめ対策、他者との関わりを大切にした児童・生徒の主体的な活動を生かして実施する。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	児童・生徒が主体的に取り組むスマイル・プロジェクトの活動を年間10回以上実施し、本活動に関する自身の役割を100%の児童生徒が自覚して取り組む。	児童・生徒アンケート「スマイル・プロジェクト」について90%以上の肯定的評価
2	ふれあい月間（6・11・2月）に児童会・生徒会を中心とした、いじめ対策等に関する活動、他者に関わる活動を年間3回以上実施する。	保護者アンケート「学校は、いじめ対策について、しっかりと取り組んでいる」85%以上の肯定的評価
	学校のいじめ防止に関する取組について、ホームページで年間5回以上発信する。	
3	道徳授業地区公開講座においては、全学級で他者とのかかわりに関する授業を公開し、保護者とともにこどもの他者意識育成について考える機会を設ける。	児童・生徒アンケート「道徳の授業を通して、『思いやり』について考えを深め、実践できた」90%以上の肯定的評価。
		児童・生徒アンケート「教育目標『優しい人』についての自己評価」90%以上の肯定的評価

重点領域3		「学び深める人」の育成 ～主体的なコミュニケーションを図る人～
中期経営目標	有西授業スタイル（①一人一人の個性や能力を大切にした授業(ICT 含) ②児童・生徒が「主体的」に取り組む授業(ICT 含) ③「考える」「表現する」ことを大切にした授業(ICT 含)を生かした教育活動を教職員が児童生徒の実態を生かしながら教科ごとに発展させ、児童・生徒が見通しをもって意欲的に学習に取り組み、学力が確実に身に付いている。【令和6年度～10年度】	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区教育委員会研究協力校における研究発表会に向けて取り組んだことを引き続き深めていくとともに、教員がより多くの教科においてこどもが主体的に授業に向かうための授業マネジメントを行えるようにする。 ・有西授業スタイルをすべての教員が理解し、教科の特性や授業の内容に合わせて改善を加えながら実施する。 ・少人数指導、習熟度別指導を実施し、「こうとう学びスタンダード」を基盤とした基礎的・基本的な力を児童生徒に確かに身に付けさせる。 ・前期課程の一部教科担任制、交換授業、後期課程のより少数の編成を行うことにより、児童生徒が「分かった」という経験を増やす 	

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	有西授業スタイルに基づく授業をすべての授業で実施（①～③の内、1つ以上を毎時間実施）する。（100%）	保護者アンケート「有西授業スタイルに基づく授業」について90%以上の肯定的評価。
2	教科担任制、交換授業、習熟度別指導による専門的な指導を充実させ、児童生徒の学習理解度を高める。	児童・生徒アンケート「前よりもよく分ることが増えている」について85%以上の肯定的評価
3	全教員が、指導する教科について9年間の系統性を意識しながら、こどもの主体性を育む授業となるようマネジメントしていく	児童・生徒アンケート「授業では学ぶことを『自分ごと』として考え臨んでいます」について85%以上の肯定的評価
4	「学び方スタンダード」について毎月の重点目標を設定し、確実に身に付けられるよう、全学級で効果的な指導を実施する。	児童・生徒アンケート「学び方スタンダード」の自己評価について85%以上の肯定的評価。
5	すべての学級で、昼読書を確実に実施し、児童生徒が読書に親しむ機会の充実を図る。（100%）	児童・生徒アンケート「昼読書にしっかりと取り組んでいる」について90%以上の肯定的評価
6		児童・生徒アンケート「教育目標『学び深める人』についての自己評価」の肯定的評価を90%以上にする。

重点領域 4		「挑戦する人」の育成 ～よりよい自分を目指し高めていく人～
中期経営目標	児童・生徒が自分の意見を表明し、それに基づいた活動を行うこと、児童・生徒と教職員が心をつなげて、新たなことに挑戦していくこと、そして様々な人との関わりや様々な体験を通して、児童・生徒一人一人がそれぞれの力を最大限に発揮し、自分に自信をもてるようになっていく。【令和6年度～10年度】	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「力いっぱい～Do my best!～」及び今年度テーマ「For…！」の意味を踏まえ、日常の教育活動の意味を児童・生徒に実感をもって理解させ、改善意識をもたせる。 ・アスリートやオリンピック等の大会を支えた人たちとの交流、協議会場の跡地の活用を進め、児童・生徒が主体的にオリンピック・パラリンピックにかかわる活動を充実させる。 	

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	発達段階を考慮しながら児童・生徒が自分の設定した課題に基づき、粘り強く解決に臨む機会を年間2回以上設定する。	児童・生徒アンケート「自分で目標をたて、実現を目指しながら、「挑戦する人」になれるよう、がんばっています。」について90%以上の肯定的評価
2	授業において、達成感を感じる機会を各教科年間2単元以上設定する。	児童・生徒アンケート「授業の中で、前よりもできるようになったことがあります」及び「前よりもよく分かることが増えている」について85%以上の肯定的評価
3	表舞台を支える活動に取り組む児童生徒を称賛する機会を設け、すべての児童生徒が「みんな、かがやく！」場の創設をする。	児童生徒向けアンケート「学校は、様々な立場の人の力いっぱいについて大切にしています」について80%以上の肯定的評価
4	オリンピック・パラリンピックを経験した人、目指す人、支える人たちやアスリートの方々から「挑戦すること」の大切さについて学ぶ機会を年間3回以上実施する。	児童・生徒アンケート「ゲストティーチャーのお話や交流を通して、挑戦することの大切さを学ぶことができた」について95%以上の肯定的評価
5	ポッチャをスクール競技として取り組み、全校児童・生徒がポッチャを理解し、親しむ活動、学級が一体となる学習、障害者理解につながる学習を年2回以上実施する。	児童・生徒アンケート「ポッチャに親しむこと」について80%以上の肯定的評価
6	「KOTO☆キッズながなわチャレンジ」、「ポッチャ大会」に全校で、年間2回以上取り組む機会を設ける。	ながなわについては各クラスが年間1回以上は、クラス目標を達成する。
7		児童・生徒アンケート「教育目標『挑戦する人』についての自己評価」の肯定的評価を90%以上にする。